

# 研究の醍醐味と子育ての醍醐味



## 西脇ゆり

金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー  
[920-1192] 金沢市角間町  
特任助教.  
専門はバイオマス変換, 界面化学.  
nishiwaki@staff.kanazawa-u.ac.jp

cdl.w3.kanazawa-u.ac.jp/

私は大学院修士課程を修了後、花王株式会社にて商品開発研究を15年担当し、その後京都大学の研究員を経て、現在は金沢大学の教員です。私生活では中学生の息子と小学生の娘の母親でもあります。

子供を産んだのは花王に勤めていた頃でした。周囲にはワーキングマザーの先輩も多く、妊娠中に気遣っていただき、産後は絵本やおもちゃのプレゼントなど、温かく接していただけたことを今でも覚えています。会社には時間単位でとれる有給休暇、子供の看護休暇などの制度が整っていましたし、仕事と家庭を両立している先輩方を見ていたので、出産前は「人ができること（子育てや両立）は自分にもできる」と根拠なく樂觀していたことを思い出します。

でも実際に子供が産まれたら、全く想像していた生活と違い、愕然としました。一瞬も赤ちゃんを離れることができず、自分は寝る時間も食事やトイレの時間もない毎日でした。こんなに24時間365日休めないのにどうして自分は過労死しないのだろうかと思っていました。子育ては思っていたよりずっと過酷なものでした。

職場復帰後は、子供がすぐに体調を崩し、妊娠前のように働くことはできませんでした。1年間に50日も看護のために休まねばならなかったときもあり、周囲にお詫びし続ける日々でした。どうしても仕事を休めない日に、熱のある息子に「お母さん行かないで」と泣きながら引き留められ、「どうして自分は仕事を続けているのだろうか」とわからなくなったときもありました。スプーンをくわえて壁に激突し口から流血、走って転んで頭から流血、一瞬目を離しただけで風呂桶内で水没……どんなに気をつけているつもりでも防げない子供の事故に「ごめんね」と泣いたこともありました。

そんな日々を経て、今は子供達も以前より丈夫になり、私も睡眠時間を確保できるようになりました。仕事の面では会社を残念ながら退職し、でも縁あって大学で研究を行うことができます。私が研究を好きなのは、世界中の誰も知らないことを最初に見つけられるからです。そして見つけたことを論文にして学術雑誌に掲載されれば他の研究者から反応をもらえるのも醍醐味です。学校や保育園と学童保育と職場とスー

パーくらいしか行けない行動範囲の狭い私に代わって、自分の書いた論文が世界に羽ばたいてくれているような気がします。性別や国籍など著者がどのような人間であるかにかかわらず、世界の研究者がお互いに知見を発表し、意見を交わし合える学術論文のシステムは良いものだと感じています。

4年前からは、大学における男女共同参画の業務にも携わっています。女性研究者の支援や男女共同参画の広報などが業務です。大学の女性研究者は配偶者の勤務地が遠く別居でも、頑張ってお子さんを育てつつ、業績を上げていच्छる方も多いです。そのパワフルさに感心しながらも、周囲ができる支援や本当に必要とされる支援とはなんだろうと自問しながら業務を行っています。また子育てに関わりた男性も多いのに、未だに男性の育休取得率は低く、どうすれば「子供は母親だけではなく皆で育てるもの」という意識が高まるのだろうかと思っています。

私事ではもう子供達には足の速さも知識量も抜かれました。トランプもゲームも勝てません。人に抜かれるのが（成長を感じて）嬉しいことだというのは子育てをして初めて知りました。私といつも手をつないでいた小さな手がもう記憶の中にしかないことが淋しいですが、大きく成長してくれたことを嬉しく誇らしく思います。子供の卒園式や卒業式で、立派に育った姿を見、一緒に育った友人達との関わりを思い出すと、自然と涙が溢れます。子供の成長で泣けるのは、幼い頃24時間365日苦勞して世話したからこそだと思っています。苦勞も喜びも味わえるのが子育ての醍醐味だと思います。

これからも、子供の毎日の弁当作りなどまだ面倒を見なければならぬことは多く、また子供が今後自立して生きていくために教えることも多いと思います。そして研究や仕事でも私にしかできないことはあるのではないかと希望をもっています。気づけば、企業や大学での研究、子育て、男女共同参画などいろいろな経験をしてきました。多くのことを経験できてありがたいと思いつつ、家族に感謝しながら、これからも様々なことに力を尽くしたいと思います。